



Amnesty
Newsletter

CONTENTS

- WORLDWIDE APPEALS
ロシア、キューバ、ルワンダ……p2
- UPDATE
欧州評議会、アルジェリア……p3
- WHAT'S NEW?
チェチン子どもたちに医療を
チェチン人医師、ハッサン・バイエフ講演
……p8

アムネスティ国際事務局や各国支部で行なわれたコンサートやイベント

CLOSE UP

音楽と人権

アムネスティのキャンペーンの中で、音楽は重要な役割を果たしてきました。多くのミュージシャンがアムネスティの活動に賛同し、協力してくれたのです。音楽は人権のメッセージを伝えるために、時として、どんなスピーチよりも人びとの心を揺さぶります。数千字の言葉よりも、たった1フレーズの歌詞、力強い歌声にこめられた平和への思いが、人びとの心に社会で起きている問題に気づきをもたらし、人びとの力を結束させることもあるのです。

今号では、ブロードキャスターのピーター・バラカンさんに、過去、人びとに影響を与えたプロテストソングのミュージシャンについてお話をお聞きしました。



反戦・人種差別から 体制批判まで

ポップソングに見る人権——ピーター・バラカンインタビュー

2008年5月号

397

Vol.

FOCUS

interview ピーター・バラカンさん

反戦・人種差別から 体制批判まで ポップソングに見る人権

一世を風靡しては消えていくポップソング。その中であって、社会のひずみや不正を表現して、長く聴き継がれていく曲も時には生まれてきます。そして、ポップソングとして表現されることで、多くの人に社会の問題点を知らしめるひとつのきっかけともなるのです。そこで、今回は、70年代頃までのアメリカを中心に、ブロードキャスターのピーター・バラカンさんに、そういった曲やそれらを生み出したミュージシャンについて、語っていただきました。

古くからあった反戦歌

——反戦などを含め、人権を扱ったような流行歌はいつごろからあるんでしょう。

社会的な内容を扱った歌というのは、割に古くからあって、たとえば『ダウン・バイ・ザ・リバーサイド (Down by the Riverside)』という歌は、南北戦争の頃の有名な黒人霊歌ですが、歌詞に「Study war no more (もう二度と戦争は学びたくない)」とあるように、明らかな反戦歌です。

作者がわかっているものでは、ウディ・ガスリー (注1) の『ディポーターズ (Deportees)』などがあります。メキシコからの不法移民についての歌です。また、ピリー・ホリデーが歌って有名になった『奇妙な果実 (Strange Fruit)』は、当時南部で黒人がリンチにより木につるされて火をつけて焼き殺されるということが多く行われており、その木にぶら下がった黒人の死体を、奇妙な果実と表現した歌です。

フォークソングは、元々 20年代、30年代に田舎の人たちが聴く音楽として歌われていました。第二次世界大戦

後、1950年代になるとそれらは既に廃れており、ほとんど忘れられた音楽でした。当時のレコードは今のようカタログに残って売れ続けるというものではなく、出すと売り切る形で、売り切れたらそのまま廃盤になる運命というのが圧倒的多数でしたからね。

フォークの発見

その頃ハリー・スミスというSP盤 (19世紀末から1960年頃まで生産されていた78回転のレコード) のマニアックなコレクターがいて、フォーク・ウェイズというニューヨークのインディーズのレコード会社から、自身のコレクションのアンソロジー『アンソロジー・オブ・アメリカン・フォーク・ミュージック (Anthology Of American Folk Music)』 (輸入盤で購入可能、CD 6枚組、レーベル: Smithsonian

Folkways) を出しました。これは、カントリー、フォーク、ブルーズが無差別に並んでいるようなアンソロジーで、はっきり言って、当時の人びとにとってはかなり奇妙なものに映ったようです。ただ、まだ十代だったボブ・ディランを始めとする、ミュージシャンやその卵たちを釘付けにし、彼らに多大な影響を与えました。僕は当時はもちろんまったく知らず、CDの時代になって初めて聴いたんですけどね。

ハリー・スミスのアンソロジーは、人びとの生活に密着した素材を扱っており、それらの影響を受けたボブ・ディラン (注2) などが、そういうものに目を向け始めました。



「時代は変わる」ボブ・ディラン

ようやく越え始めた人種の垣根

——アメリカでは、やはり差別に関する曲が多いようで

や、1964年の「時代は変わる (The Times They Are a-Changin')」などがプロテストソングとして支持され、公民権運動やベトナム反戦運動の代弁者とみなされた。「風に吹かれて」は、「フリーホイーリン・ボブ・ディラン (The Freewheelin' Bob Dylan)」(ソニー・ミュージック、MHCP-803) で、「時代は変わる」は、「時代は変わる

すが、差別される側の黒人はどうだったのでしょうか。

黒人が自分たちの不満を表明したようなブルーズは、いくらでもあります。ただ、初期のブルーズは、あくまで黒人しか聴いていないので、ストレートに、「俺はこんなに辛いんだ」と言ってもしょうがない。それと、黒人のユーモアというのは、なかなか表現がおもしろいんですね。高度な教育を受けていなくても、話術に優れています。したがって、どちらかという苦勞を笑い飛ばすような曲が多いようです。

黒人だけが聴いていたこういう曲が、白人に紹介されたきっかけのひとつとして、1938年にジョン・ハモンドという有名なレコード・プロデューサーが企画した「フロム・スピリチュアルズ・トゥ・スウィング (From Spirituals to Swing)」という大イベントがありました。これは黒人霊歌からスイングジャズまでの黒人音楽の歴史を二晩で紹介するという白人向けのコンサートで、カーネギーホールで行われました。

白人が黒人音楽を聴くようになると、土着的なブルーズよりは、もう少しメッセージを持ったフォーク的な歌を歌うようになるんです。たとえば、その中には、音楽学者のアラン・ローマックスがルイジアナの刑務所でたまたま見つけたレッドベリー (注3)、カーネギーホールのコンサートに出演したビッグ・ビル・ブルーンジー (注4) などがいます。

ビッグ・ビル・ブルーンジーはギターの名人だし、早くからシカゴに出て都会で暮らしていましたが、声が軽やかで発音もわかりやすく、洗練された感覚の持ち主でした。多くの白人が初めて聴いたブルーズは、ビッグ・ビル・ブルーンジーだったと思います。彼は50年代にヨーロッパにも頻りに演奏旅行に行き、いろんなタイプの歌を歌うんだけど、ひとつおもしろいのは、「ブラック、ブラウン・アンド・ホワイト (Black, Brown and White)」。いろんなシチュエーションで、白人だったら、黒人だったらと比較していて、差別をありのままに歌った、わかりやすく覚えやすい歌です。ただ、アメリカでは、レコード会社が録音してくれず、50年代によくツアーをしていたヨーロッパのフランスで初めて録音できて、この曲が世に出ました。割と初期に黒人が差別を歌った曲としては、こんなものがあります。

ボブ・ディランの登場

——60年代はどんな感じでしたか？

(The Times They Are a-Changin') (ソニー・ミュージック、MHCP-836) で聴くことができる。
注3 レッドベリー (Leadbelly: 1888~1949年) 米ルイジアナ州生まれ。若くしてミュージシャンとして活動を始めたが、もめ事も多く、何度か服役した。12弦ギ

ターを中心にさまざまな楽器を演奏し、多くのフォークとブルーズで、アメリカの抱える問題を指摘した。
注4 ビッグ・ビル・ブルーンジー (Big Bill Broonzy: 1893 (正確には不明) ~1958年) 米ミシシッピ州生まれ。20年にシカゴに移り、27年に初録音。50年代までシカゴ・ブルーズのパイオニアとし



ピーター・バラカン Peter Barakan

1951年ロンドン生まれ。1973年ロンドン大学日本語学科卒業後来日。1980年頃から執筆活動、ラジオ番組への出演などを開始。また1980年から1986年までイエロー・マジック・オーケストラ、後に個々のメンバーの海外コーディネーションを担当した。現在は、TBSテレビで「CBSドキュメント」(水曜深夜1:55~)の司会を担当。NHK FMラジオでは「ウィークエンド・サンシャイン」(土曜朝7:15~)の選曲とおしゃべりなどを担当している。

ボブ・ディランは、前述のハリー・スミスのアンソロジーや、ウディ・ガスリーの影響で、社会的な内容を扱ったフォークソングを作っていました。彼はだみ声ですから、当初は彼の曲が他の人にカバーされてヒットし、それからようやく彼自身のアルバムも売れ始めました。そして、プロテストソング (戦争や政治体制など、さまざまなことに対する抗議のメッセージを込めた歌) の旗手のように思われていたのですが、その彼が、今度はビートルズに影響を受けて、エレクトリックギターを弾くようになって、ロック的な曲を作るようになります。そこで、ポピュラー音楽はラブソングだけじゃなくていいんだと、みんなが気づき始めます。それまでのポピュラー音楽でラブソング以外のものは、ほとんどなく、チャック・ベリーなどは、おもしろい歌詞を持った曲を作っていましたが、極めて例外的で、圧倒的にラブソングでした。そのような中で出てきたディランの歌により、歌詞の可能性にみんなが気づいて、フォークロックのブームが起きるんです。それが60年代半ば頃ですね。

で活躍した。「Black, Brown and White」は、「Black, Brown and White」(輸入盤、レーベル: Polygram)などで聴くことができる。

音楽と社会が密接だった60年代

その頃1964年に公民権法ができ、公民権運動がひとつのピークを迎えていました。しかし一方で、マルコムXやキング牧師が暗殺されたり、ベトナム戦争はエスカレートするなど、世の中に不満を持った若者がたくさんいました。ディランに触発されて、それらの不満を歌で表現しようという人が出てきました、おそらく、60年代半ばから後半の、あの時期が一番多かっただろうと思います。

ディランもビートルズの影響を受けただけど、ビートルズもずいぶんディランの影響を受けて、必ずしも社会的な内容ばかりではありませんでしたが、彼らの歌詞の表現も詩的に変わっていきました。ビートルズの影響力は世界的でしたから、ポップソングの表現が変わっていきました。

そのような状況で、ひとつの事件に触発されてできた曲があります。1970年5月米オハイオ州立大学ケント校で、州兵がベトナム反戦のデモ隊に発砲し、4人の学生が殺されました。その事件を聞いたニール・ヤング（注5）は、その日のうちに4人の学生がなぜ殺されなければならなかったかを問う「オハイオ（OHIO）」という曲を書いて、翌日には録音し、1週間後にシングル盤を出しました。ポップソングが、ニュース的な即時性を発揮した、非常に珍しい例です。

黒人音楽でも社会性の強い歌が登場

——その後、音楽業界がより商業的になる中で、どのように変わっていったのでしょうか。

70年代に入ると、ようやく黒人の方でも、中味の濃い社会的な意識を持った歌が生まれ始めます。ソウルは白人のロックと違って、長い間シングル盤中心の市場だったので、どうしてもヒットねらいになりがちでした。なかなか、心の中を表現するという余裕のある人はいなかったでしょう。

注5 ニール・ヤング

(Neil Young：1945年～)

カナダ、トロント生まれ。バッファロー・スプリングフィールドやクロスビー、スティルズ、ナッシュ アンド ヤング (CSN&Y) のメンバーとしても活躍した。9.11 事件後のチャリティコンサートで、当時放送が自粛されていたジョン・レノンの「イマジジ」を歌うなど、メッセージ性の強い活動も多い。

「OHIO」は、『Decade 輝ける十年』（ワーナーミュージック・ジャパン、WPCR-1189/90）などで聴くことができる。

注6 マーヴィン・ゲイ

(Marvin Gaye：1939～1984年)

米ワシントン D.C. 生まれ。1971 年に発表したアルバム『What's Going On』は、社会的な内容を扱ったひとつのコンセプトを持った作品として高く評価され、大ヒットする。これは当時シングル盤中心だった黒人音楽の世界にあって画期的なことであり、その後の黒人アーティストに大きな影響を与えた。

「What's Going On」は、『ワッツ・ゴーイン・オン+2』（ユニバーサルミュージック、UICP-9490）などで聴くことができる。

注7 カーティス・メイフィールド

(Curtis Mayfield：1942～1999年)

米イリノイ州生まれ。1958年にインプレッションズとし

マーヴィン・ゲイ（注6）がベトナム戦争に反対する曲「ワッツ・ゴーイン・オン（What's Going On）」を作った時、所属していたモータウン・レコードの社長は、「こんな出したら、お前のキャリアは終わってしまう」と反対しました。しかしマーヴィンが、「どうしても出したい」と強く主張したので、「シングル1枚は出すが、それで失敗したらお前の主張はもう二度と聞かない」と釘を刺しました。しかし、出してみたら、とても受けが良くって売れたんです。その後出した同名のアルバムは、マーヴィンの代表作にもなったし、ロックを含めたポピュラー音楽の名作となったわけです。

この時期の黒人ミュージシャンでは、他にもカーティス・メイフィールド（注7）やギル・スコット・ヘロン（注8）などが、社会性の強い歌を発表しています。

70年代になるとレコード業界の規模が大きくなり、よりコマーシャライズされ、そういうタイプの歌が少なくなっていきました。アメリカではベトナム戦争も終わり、社会全体が疲れたんでしょう。逆にイギリスはパンクの時代になります。しかし、70年代半ばから後半のイギリスはパンク一色のように見られがちなんですけど、実際一番売っていたのは、アバだったり、サタデー・ナイト・フィーバーだったり、ディスコの時代でもありました。

やはり、社会性の強い歌というのは、いつの時代でもマイノリティなんです。やっぱりラブソングを作った方が売れるわけだし。だいたい、ミュージシャンになる人は、有名になりたいとか、女の子にもてたいとか思ってるわけですからね（笑）。ただ、その後もそういう表現活動をする人は、少数派ながら確実にいて、それは現在もそうですね。（聞き手：長田真理）

Amnesty 会員に
「ピーター・バラガンが勧めるこの1曲!」連載開始!
 次号より隔月で、ピーター・バラカンさんに、人権にまつわるポピュラー音楽を1曲ずつご紹介いただきます。お楽しみに!



「What's Going On」 マーヴィン・ゲイ

て活動を始める。インプレッションズ時代の代表曲として、間接的ながら差別や戦争を非難した「People Get Ready」がある。70年にソロとして独立し、マーヴィン・ゲイ、スティーヴィー・ワンダーらと並んでニュー・ソウルと呼ばれた。

注8 ギル・スコット・ヘロン

(Gil Scott Heron：1949年～)

米イリノイ州生まれ。ジャズっぽい演奏をバックに、社会性の強い自作の詩を朗読するスタイルで、元祖ラッパーとも言える存在。黒いディランとも呼ばれる。

チュニジア 2008/2/21

死刑判決維持

「テロ」行為で有罪となった30人の控訴審があり、1人の死刑判決が維持された。また、被告人全員に対する再審命令もなく、公正な裁判を受ける権利の深刻な侵害への対処も行なわれなかった。ただ、1人の死刑判決が取り消され、終身刑となった。2007年12月の第一審では、2人に死刑判決が、また、28人に3年から終身刑の刑が言い渡された。

アムネスティを代表して裁判を傍聴した弁護士は、「控訴審は最初から欠陥だらけだった。この事件の裁判を是正する機会があったのにそれをしなかった。被告人たちは非常に重大な罪で起訴されたにもかかわらず、原審も、今回の控訴審も、国際法の要求する基本的な保障に違反している」と述べた。

ソリマン事件として知られるこの裁判は、2006年12月と2007年1月にソリマン近くで起きたチュニジア治安部隊と武装集団の武力衝突に関するもの。この衝突で治安部隊隊員2人を含む14人が死亡したが、武装集団の幹部もすべて死亡したと伝えられた。この武装集団は、アルジェリアで「テロ」攻撃を行なったとされるイスラム・マグリブ諸国のアルカイダ組織に関連があるとされる。

EU 2008/3/18

イラク人難民対策が不十分

イラク侵攻以来5年を迎えた今も、国内外に避難した何百万人ものイラク人は、いまだ悲惨な状況下に置かれている。EUやEU加盟諸国は、こうした難民を支援し保護するために十分な措置をとっていない。

紛争の結果、イラク国内では推定600万人にもなる人びとがいまだに緊急人道援助を必要としている。国外に逃れた避難民のうちシリアとヨルダンが約200万人を受け入れているが、財源逼迫のため両国政府は現在、避難民の流入を制限している。滞在を許された人びとの多くも、法的に宙吊りの状態で生活している。こうした人びとは難民としての地位も法的な在留資格やビザの延長も認められていない。EU圏におけるイラク難民申請数は比較にならないほど少なく（2003年以来約10万人）、その待遇は各加盟国によって大いに異なる。このことが、同じような状態にある人びとでも、EU圏のどの加盟国に滞在しているかによって受ける保護の内容が異なるという不公平な状況を生み出している。さらに第三国で不安定な状態にある避難民たちに対して、現在再定住プログラムを提供しているのは、わずか7加盟国にすぎない。

インターネットでキャンペーン情報を受け取ろう ——メールマガジン購読のお誘い

●アムネスティの活動やキャンペーンについての情報をメールで定期的に受け取ることができます! メールマガジン「アムネスティ・アップデート」を購読しませんか? 申し込みは、お名前と「メルマガ希望」と明記の上、stoptorture@amnesty.or.jp宛にメールを送信してください。携帯電話のメールには対応しておりません。

●電子メールによる会員の交流の場、aijpフォーラムに参加しませんか? こちらはアムネスティ会員のみのメーリングリストです。電子メールをお持ちの会員の方ならどなたでも参加できます。
 連絡先: owner-aijp_forum@jca.apc.org

※本誌掲載の記事は必ずしもすべてがアムネスティの立場を代表するものではありません。※本誌で使用した写真・文章の著作権は、とくに指定のない限り、アムネスティ日本に帰属します。

チベット 2008/3/15

国連の調査の受け入れ要請

中国は、チベット地域を封鎖し、人権状況の調査を長期に制限しているが、今回の事件について、国連の調査を受け入れるべきである。国連人権理事会もチベットの状況に取り組む必要がある。アムネスティは中国に対し、抗議行動への自制のある対応を求める。また、拘禁したすべての人びとの消息を明らかにし、表現の自由、集会・結社の自由を平和的に主張した人びとを釈放するよう求める。

中国 2008/3/7

五輪を前に、活動家を迫害

北京で人権弁護士や活動家への取り締まりが続いている。激しさを増す公安当局による活動家への検閲、攻撃、誘拐は、五輪開催までに人権状況を改善するとした政府の約束に反するもの。弁護士で学者の人権活動家は夜自宅に戻った後、車に押し込まれるところを目撃されたのを最後に行方不明となった。ある人権派弁護士は息子を車で学校へ送る途中に警察車両に追突され、脅迫も受けた。

国連 2008/2/18

米国人種差別報告書を審査

人種差別撤廃の国際条約にもとづく米国の定期報告書が、国連人種差別撤廃委員会の審査を受けた。報告書には、人種、肌の色、民族や国籍に基づく人種差別からの保護を保障する同条約上の義務に関する米国の遵守状況が記載されている。アムネスティは昨年、委員会への報告書で、米国憲法が法の下での平等な保護を保障しているが、組織的な人種差別が現在も各地で続いている実態を指摘した。

ロシア 2008/2/26

表現の自由を抑制

ロシアでは、人権活動家、独立系組織、メディアの活動、批判的意見の表明が抑制されている。意見を表明し、権利のために立ち上がる人びとに対し、あいまいな法律が恣意的に適用され、嫌がらせが増加。「西側の影響」に対抗する戦略の一環で、表現や集会の自由が損なわれている。反政府的なデモが暴力的に解散させられ、デモや集会を見守る人権活動家やジャーナリストが圧力を受けている。

私たちは、世界人権宣言を実現する社会を目指しています。
Amnesty International Japan
 社団法人アムネスティ・インターナショナル日本 Amnesty Newsletter, vol. 397
 発行人・携 美佳／編集人・藤田 真利子
 デザイン／渡邊民人・高橋明香 (TYPEFACE)
 郵便振替口座番号：00120-9-133251
 加入者名：社団法人アムネスティ・インターナショナル日本
 ●東京事務所 (平日 10:00-19:00 / 土曜・日曜・祝日休)
 〒101-0054 千代田区神田錦町2丁目2 共同ビル(新錦町)4F TEL:03-3518-6777 FAX:03-3518-6778
 ●大阪事務所 (平日・土曜 13:00-18:00 / 水曜・日曜・祝日休)
 〒552-0021 大阪市港区築港2-8-24 pianPOビル509 TEL:06-4395-1313 / FAX:06-4395-1314
 ●ウェブサイト：<http://www.amnesty.or.jp/>
 ●Eメール：info@amnesty.or.jp